

三浦市議会議員（無所属）

いしざき 遊太

編集・発行 石崎 遊太 / 令和7年4月発行 / 南下浦町上宮田1422-4 / 080-4733-4115



任期の折り返しを迎えて

選挙で勝つために必要不可欠とされる『ジバン（組織）・カンバン（知名度）・カバン（資金）』をひとつも持たない私が、「しがらみなく闘って三浦市を議会から変える！」と意気込んで臨んだ前回の市議会議員選挙から、早くも2年が経過しました。自分を信じて投票してくださった多くの市民の方々への感謝を忘れることなく、ひたむきに活動してまいりました。議会での奮闘はもちろん、毎週の駅立ちや、毎日の活動を記した振り返りブログも欠かさず続けてこられたのは、皆様のあたたかいご声援のおかげです。



実はこの春からは精神保健福祉士の資格取得を目指し、通信制の専門学校に入学しました。せっかく学ぶなら、机上の理論だけでなく現場でも学びたいと考え、議員活動と並行して、4月1日から病院でケースワーカー（相談員）としてパート勤務も始めました。将来的には社会福祉士の取得も視野に入れ、名実ともに福祉分野に長けた議員となるよう、努力を重ねてまいります。もちろん、議員活動の質を落とすことなく、引き続き全身全霊で日々取り組みます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



材料

※4〜5人前分

米	2合
水	適量
白だし	大匙4
春キャベツ	80g
油揚げ	1枚
しらす	50g
ごま油	適量



作り方

- 1.炊飯器に研いだ米と白だしを入れ、2合の目盛りまで水を加える。
- 2.刻んだ油揚げとしらすを入れ、炊飯ボタンを押す。
- 3.水洗いしたキャベツを2〜3センチ角に刻む。
- 4.炊けたごはんに3のキャベツを加えて混ぜ、10分ほど蒸らす。
- 5.ごま油をひと回しかけて混ぜる。



お手伝いに夢中な娘

生でも美味しい、さっと火を通して美味しい三浦の春キャベツ。一緒に炊くと水っぽい仕上がりになってしまうので、蒸らしの工程で軽く加熱する程度にとどめ、春キャベツらしい食感や風味を損ねないようにしてみました。キャベツの切り方と蒸らし時間はお好みで。めんつゆでもいいのですが、白だしのほうが素材が活きると思います。白だしって、なくてもなんとかかなるけれど、あると料理の幅がぐっと広がるので、我が家では欠かすことのできない調味料なんです。



PROFILE -プロフィール-

いしざき 遊太

HP、各種SNSなどは
こちらからどうぞ！！
過去のみうラボReportも
HPにアップしています。



1991年4月生まれの34歳。幼馴染の妻とともに、娘(2歳)と息子(7か月)の子育てに奮闘中。
上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。
2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。
2023年4月の市議会議員選挙にて、1960票の得票を賜り当選(2位)。

みうらみらいラボ 会員募集中

みうらみらいラボは、代表であるいしざき遊太との対話を行いながら、会員同士で『三浦の今と未来について考え合う』ための政治団体です。詳細および入会のお申し込みにつきましては、右の2次元コードよりご確認ください。ご連絡いただければ紙の申込書もお届けします。市内在住でご入会いただいた会員様には、このみうラボReportを毎号お届けします。



令和7年第1回定例会 一般質問 について

質問の全体像

私が行った令和7年第1回定例会における一般質問の項目は、下記のとおりです。

1.エビデンスに基づく政策立案

- (1) EBPMについての認識
- (2) 庁内における統計データの運用

2.若年層の移住・定住政策

- (1) 子育て支援事業の拡充
- (2) 働く場としてのアプローチ
- (3) 子育て賃貸住宅の運営状況
- (4) 個別事業の現状と課題

1は抽象度の高いテーマであったため、行政から前向きな答弁を引き出すのに苦労しましたが、日ごろから地道に政策研究を重ねてきたからこそ取り上げることができた内容だったと自負しています。2も所管する部署が多岐にわたり調整に手間がかかったものの、私がこの2年間で考え抜いてきた今後の市政運営において重要となる視座を、しっかりと盛り込むことができました。

発言の全文については、私が文字起こししたものをブログに見やすく掲載しております。下記の2次元コードからご覧ください。



コチラの2次元コードより
発言全文をご覧になれます



いしざき 遊太 一般質問

エビデンスに基づく政策立案

国だけでなく地方自治体においても、『エビデンスに基づく政策立案(EBPM)』という考え方が重要視されるようになっていきます。

＜用語解説 EBPM＞

EBPM (Evidence-Based Policy Making) とは、統計データや実証研究などの客観的な根拠(エビデンス)をもとに、政策を立案・評価していく手法のこと。

従来の政策決定は、過去の慣習や経験則、あるいは主観的な判断に基づくことが少なくありませんでした。しかし、**財政が厳しく、人口減少が進む昨今の状況下では、限られた資源を最大限に活用し、より効果的な施策を実行することが求められます。**そのためには、政策の根拠となるデータを収集・分析し、それをもとに意思決定を行うEBPMの手法が必要不可欠となってきます。こうした背景を踏まえ、市の認識と取り組みを中心に質問を展開しました。結論として、市は『全国的にEBPM推進の取り組みが始まっていることは認識しているものの、EBPMを全庁的に推進する体制の構築には至っていない』という状況にあることがわかりました。

また、EBPMを実践する上では、統計データの活用が重要となるため、その運用体制についても確認しました。令和3年の段階で、統計情報を政策部所掌業務に活用するとともに、デジタル化による業務改善を効果的に推進するため、当時市民部に置かれていた統計情報課を政策部デジタル課として再編した点は評価できます。一方で、現状ではデータの分析・活用は各所管課に委ねられているとのことでした。各種統計情報を統合的に管理し、政策部門と連携してデータ活用を支援する体制の構築が必要であると考えます。

少し小難しく、三浦市には縁遠い話のように感じられるかもしれませんが、EBPMは一部の大都市や財源に余裕のある自治体だけが行うべきものではありません。むしろ、財政状況の厳しい小規模自治体こそ、導入が強く求められる考え方です。実際、人口5万人以下の自治体でも、データ分析を活かした政策形成を進めている事例が増えてきています。そうした先進自治体の取り組みを参考にしながら、今後の行政運営にEBPMの視点を積極的に取り入れていってほしいと思います。

発言の中での主要要望

1. データ分析を行う支援組織の設置
2. データ活用に関するビジョン設定
3. ビッグデータの全庁的な活用
4. ロジックモデルの導入
5. EBPMを推進する人材育成の強化

若年層の移住・定住政策

私はこれまでの一般質問において、本市の少子化の現状と今後の見通しについて取り上げてきました。そこで明らかになったのは、若年層の人口規模、有配偶率、合計特殊出生率の現状や推移から見ても、**本市の少子化が極めて深刻な状況にあるという現実**です。子育て世代をはじめとする若年層が安心して定住できる環境を整え、地域の魅力を高めていくことは、単なる少子化対策にとどまらず、地域の活力を維持・向上させていく上でも欠かせない視点です。そこで今回は、『若年層の移住・定住政策』という大きなテーマを掲げ、これまで個別に問いかけてきた各施策の進捗確認も含めながら、質問と要望を展開しました。

子育て支援の拡充については、課題とされてきた**産後ケアの充実や新たな一時預かり事業、保育士の確保に向けた具体的な取り組み**など、かねてより求めてきた施策が少しずつ形になりつつあり、子育ての当事者としても確かな前進を実感しています。



三浦海岸を一望できるコワーキングスペースは石崎も日々活用しています。

『暮らしと両立できるのか』という視点を明確にしていくことが重要です。新しいターゲット層としてリモートワーカーの存在を視野に入れながら、サテライトオフィスの整備やワーケーションの推進を要望しました。

子育て賃貸住宅については、入居者のニーズに答えられているか、地域コミュニティへの溶け込みを促す取り組みが実施できているかといった運営状況を確認しました。

三浦の移住・定住政策は、まだまだ良くなる余地が残っているとあらためて感じました。これからもしっかりと提言してまいります。



チエルSeaみうらの入り口横のキッズスペースも拡充！

発言の中での主要要望

1. 妊産婦の移動支援への抜本的な取り組み
2. 起業・創業後のフォロー体制拡充
3. リモートワーカーの移住を想定した施策
4. ワーケーション推進に向けた実証実験
5. 子育て賃貸住宅入居者へのニーズ対応
6. コミュニティ形成事業の強化
7. 移住促進冊子のブラッシュアップ
8. 移住ポータルサイトの改善
9. 結婚新生活支援補助金の対象拡大



長男は生後7か月となり、離乳食にも慣れてきた様子。あっという間に大きくなりますね…